

第 21 回 龍頭が滝案内

「暦(こよみ)と、松笠の暮らし(その7 保関谷の社日さん①)」

旧暦の時代、ですから江戸時代には、「二十四節気」や、「雑節」(「節分」「八十八夜」「入梅」「半夏生」「二百十日」「社日」のことをいいます。)が季節の目安とされ、農作業もそれに従って進められていました。松笠でも、同じような状況であったことは、次に紹介する「社日さん」の行事からも、伺い知ることができます。

「社日」とは、年に2回ありまして、春分の日・秋分の日にもっとも近い「戌」の日をいいます。(旧暦では、年だけではなく日にも十二支が振られていました。)旧暦の計算方法を利用すると、2024年の社日は、3月15日(金)と9月21日(土)になります。春の社日は春社、秋の社日は秋社と呼ばれ、春は五穀豊穡を祈り、秋は収穫への感謝を込めて、土地の神を祭る日となります。

保関谷地内にある、市道と県道の交差点の東側には、小高い山があって、その頂の平地には4重の石塔が立っています。この石塔は、「社日さん」と呼ばれており、春と秋には、保関谷自治会の方々によって、お祭りが行われています。

カレンダーを見て、「社日」と記されている日の付近で都合の良い日(日曜日などの休日)を、お祭りの日にされているようです。宮司さんは招きませんが、みんなが集まり、まずはこの石塔に参拝。そのあと場所を変えて、お酒やお茶で楽しく過ごされています。

この石塔の一番上ですが、高さ80cmで五角形の石柱になっていて、それぞれの面には、「天照太神」(読み方:あまてらすおおみかみ)、「大己貴神」(おおなむちのかみ)、「小彦名神」(すくなひこなのかみ)、「倉稻魂神」(うがのみたまのかみ)、「埴安姫神」(はにやすひめのかみ)、という神様の名前が彫られています。いつ建立されたのかを示す文字は、確認することはできません。

それぞれの神様はどんな御利益(ごりやく)をお持ちなのか、どうしてここに石塔があるのか、などについては、次回考えてみたいと思います。



石塔(社日さん)のある場所



社日さん